

大腸癌腫瘍浸潤先進部所見の分子生物学的背景の解明に関する検討

1. 研究の対象

2014年1月～2016年12月の間に当院で大腸癌の手術を受けられた方

2. 研究目的・方法

大腸癌術後の予後と相関する因子として、当教室では大腸癌と正常組織の境界部（腫瘍先進部）に認められる「低分化胞巣」および「線維性癌間質」などの病理組織所見に着目して、検討を重ねてまいりました。その結果、これらの因子がリンパ節や肝臓・肺等の遠隔臓器への転移などを鋭敏に反映し、予後と強い相関を有することが判明してきました。しかしながら、上記因子に関する分子生物学的な背景（mRNA やタンパク質の発現）については、未だ明らかになっていない点も多く、これらが解明できれば、新たな分子標的薬の創薬につながる可能性を秘めています。

本研究の目的は、大腸癌における腫瘍先進部における病理組織所見の分子生物学的特徴を明らかにすることです。

本研究は、防衛医科大学校病院において2014年4月から2016年12月までの間に大腸癌の手術を受けられた、約100人の患者さんの入院および外来での既存資料のみを用いる後方視的研究です。病理組織学的な検討には、術前に「組織・体液等の教育・研究への使用に関する同意書」により同意をいただき、凍結標本を採取させていただいた患者さんについて、保管されている大腸癌の病理標本を用いますので、今後、研究のために新たに患者さんから検体を採取したり、投薬をしたりすることはありません。

研究期間は2017年2月20日から2020年12月31日までを予定しています。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：病歴、画像所見、病理検査結果、再発の有無、転帰、等

試料：手術で摘出した組織

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

研究責任者：

〒359-8513 埼玉県所沢市並木3-2

防衛医科大学校病院 外科 梶原由規

TEL: 04-2995-1511 (内線 2356)